



骨腫瘍として受診した骨パジェット病の3例

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-05-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 紫藤, 洋二, 松山, 幸弘 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00004146

骨腫瘍として受診した骨パジェット病の3例

紫 藤 洋 二¹⁾, 松 山 幸 弘¹⁾

骨パジェット病は骨リモデリング異常に起因する骨疾患である。欧米人に比較して日本人における罹患率は極めて低く、100万人に3人程度と報告されている¹⁾。骨硬化、骨吸収所見を伴い骨腫瘍として初診する症例も多い。腫瘍外来へ紹介された骨パジェット病3例の臨床像、治療に関して検討した。

対象および方法

2016年から2017年に骨腫瘍を考慮されて当科を受診した骨パジェット病の3例。平均経過観察期間2.5年(1.8~3.7年)、男性2例、女性1例、平均年齢70歳(65~80歳)。骨盤2例、脛骨1例。初診時ALPは平均820U/L(320~1498U/L)で1例のみALP高値を認めなかった。全例に骨生検が行われていた。臨床症状、治療および治療効果を検討した。

症 例

症例1: 66歳男性。主訴: 骨盤部痛。右恥坐骨から寛骨に、皮質骨の肥厚、骨硬化、吸収像を認める(図1)。

症例2: 80歳男性。無症候性。皮質骨の肥厚、骨硬化、吸収像を認め、隣接膝関節の変性を伴う(図2)。

症例3: 65歳女性。無症候性。左仙腸関節部に骨



図2 症例2



図3 症例3



図1 症例1

吸収、骨硬化の混在を認める(図3)。

結 果

疼痛を1例に認めたが2例は無症候性であった。2例にリセドロン酸の大量投与(17.5mg, 連日8週間)、1例はリセドロン酸通常投与(17.5mg, 1週間毎継続)が行われた。リセドロン酸大量療法は2例中1例は腎機能障害により4週間で投与中断となった。投与開始後平均4.5ヵ月(3.7~4.2ヵ月)でALPは正常化、疼痛の1例は疼痛消失した。4週間

Three case reports of Paget's disease of bone suspected as bone tumors : Yoji SHIDO et al. (Department of Orthopedic Surgery, Hamamatsu University School of Medicine)

1) 浜松医科大学整形外科

Key words : Paget's disease, Bone tumor, Risedronate
利益相反なし

で中断した1例は1年後にALPの再上昇を生じた。

考 察

骨パジェット病は骨形成、骨吸収を生じるため骨腫瘍との鑑別が必要となり得る。特に骨肉腫は骨形成を特徴とする悪性腫瘍であり、鑑別すべき疾患となる。症候性の骨パジェットは5%のみとも報告されている²⁾。自覚症状に乏しい、腫瘤の形成がないなどは鑑別の一助となる。骨パジェット病の画像所見としては、皮質骨の肥厚、骨硬化が特徴的である³⁾。2症例は比較的特徴的な単純X線像を呈していた。骨パジェット病は悪性化特に骨肉腫への悪性化が報告されている⁴⁾。

治療に関してはビスホスホネート投与、特に近年ではゾレドロン酸投与が多く報告されている⁵⁾。日本国内においてはリセドロネート1週間製剤の8週間連日経口投与が保険適応となっている。悪性化の他にも四肢長管骨の変形を生じ得る⁶⁾。

リセドロロン酸開始後より早期にALP低下を認めた。症候性であった1例も投与開始後より疼痛の改善を得た。短期的な結果ではあるが、リセドロロン酸投与は血液生化学的には有用である。骨パジェット病に対しても積極的な治療介入が望ましい。

文 献

- 1) Hashimoto J, Ohno I, Yoshikawa H, et al. Prevalence and clinical features of Paget's disease of bone in Japan. *J Bone Miner Metab* 2006 ; 24(3) : 186-190.
- 2) Selby PL, Davie MW, Stone MD, et al. Guidelines on the management of Paget's disease of bone. *Bone* 2002 ; 31(3) : 366-373.
- 3) 日本骨粗鬆症学会. 骨 Paget 病の診断と治療ガイドライン委員会編. 骨パジェット病アトラス. 東京 : ライフサイエンス出版 ; 2005 : 34.
- 4) Mangham DC, Davie MW, Grimer RJ. Sarcoma arising in Paget's disease of bone: declining incidence and increasing age at presentation. *Bone* 2009 ; 44(3) : 431-436.
- 5) Cundy T, Maslowski K, Reid IR, et al. Durability of response to Zoledronate treatment and competing mortality in Paget's disease of bone. *J Bone Miner Res* 2017 ; 32(4) : 753-756.
- 6) Siris ES, Feldman F. Natural history of untreated Paget's disease of the tibia. *J Bone Miner Res* 1997 ; 12(4) : 691-692.